P-369 Sildenafil治療抵抗例および慎重投与例に対する臨床的検討

大阪市立大学 医学部¹⁾ 大阪市立十三市民病院²⁾

田中 智章¹⁾ 桑原 伸介¹⁾ 長沼 俊秀¹⁾ 甲野 拓郎¹⁾ 川嶋 秀紀¹⁾
岸本 武利¹⁾ 榊田 周佳²⁾ 西阪 誠泰²⁾ 安本 亮二²⁾

【目的】本邦においても、SildenafilはED外来における主要な治療オプションとなってきた。さらにSildenafil治療抵抗例および慎重投与が必要な症例への対応が望まれる。自験例において臨床的検討を行った。【対象と方法】分類は機能的5例、血管性2例、神経性3例、糖尿病性1例、さらに血液透析例6例である。Sildenafil治療抵抗例に対して（1）用量増加、（2）ICI（PGE1）併用を行い、またHD例に対しては（1）ICIによるトレーニング、（2）Sildenafil使用を行った。【結果】用量増加の効果は25mg→50mg（有効：3/5）、50mg→75mg（有効：1/1）、50mg→100mg（有効：3/3）であった。Sildenafil 50mg+ICI（PGE1）は2例に行い1例は著効した。HD3例に対してICI（PGE1または塩酸パバペリン）によるトレーニングを行い、いずれも合併症なく2例が有効であった。さらに重篤な循環器合併症を認めなかったHD3例に対してSildenafil 25mgを投与し、副作用認めず有効であった。【結論】Sildenafil抵抗症例に対する用量増加およびICI併用療法は有効な手段と考えられた。HD例に対してはICIは選択しうるオプションと考えられた。

Sildenafil dose-up PGE1

P-370 当科におけるクエン酸シルデナフィル治療

東邦大学 医学部 第一泌尿器科¹⁾

博慈会記念総合病院²⁾

西見 大輔¹⁾ 永尾 光一¹⁾ 大平 直¹⁾ 鈴木 九里¹⁾ 吉田 淳¹⁾
原 啓¹⁾ 三浦 一陽¹⁾ 石井 延久¹⁾ 上田 建²⁾ 白井 将文²⁾

【目的】勃起障害(ED)の治療はシルデナフィルの内服が第一選択になりED診療が一変した。そこでシルデナフィル治療の現状を明らかにすることを目的とした。【対象と方法】対象は平成11年3月23日から9月30日の約6カ月間に東邦大学大森病院リプロダクションセンターを訪れたED患者375例とし、投与方法は日本性機能学会ガイドラインやファイザー製薬社製の使用上の注意書にしたがって行った。【結果】シルデナフィルの使用患者数は204例でED患者の54.4%であった。使用患者の年齢は20～80歳、平均44.5歳、パートナーの年齢は19～75歳、平均40.6歳であり、ED期間は0.17～41年、平均6.0年であった。経過観察できたのは89例（43.6%）で個人輸入や近医での継続が考えられた。89例の成績は平均で性交の試み頻度（月）は1.7回から4.5回に増加し、腔内挿入率は29.5%から83.7%に、腔内射精率は21.6%から77.5%に改善した。改善例の割合は、性交の試み頻度82.0%、腔内挿入率88.8%、腔内射精率77.5%、勃起の改善96.6%であった。副作用は頭痛6例6.7%、顔のほてり5例5.6%、動悸など4例4.5%、消化器症状3例3.3%、眼の疲れなど2例2.3%でいずれも軽症で一過性で中止する患者はいなかった。【結論】シルデナフィルは安全性、有効性が高くED治療に有用な薬剤と考えられた。今後症例を増やして報告したい。

勃起障害(ED) シルデナフィル 有効性と安全性

P-371 Initial Experience with MUSE*

Urology Department, The North Middlesex Hospital¹⁾

Fowles George¹⁾ Vohra Anil¹⁾ Daswell Rosemarie¹⁾ McDonald Jean¹⁾

【Introduction】Erectile dysfunction is an increasing problem as patients become more aware of available treatments. We describe our experience with MUSE*. 【Materials & Methods】149 patients attending our outpatient clinic opted for MUSE* therapy. They were initially titrated to an optimal dose, following which the need the medication unsupervised. Follow up data was obtained at 3, 6 and 12 months, using a sexual health questionnaire. 【Results】86 patients (57.7%) remained satisfied with MUSE*, obtaining grade 4-5 erections suitable for sexual intercourse. 15 patients (10.1%) had poor response. 48 patients (32.2%) failed to continue treatment for a variety of reasons. 【Conclusion】MUSE* therapy achieves moderate success but appears to have improved patient satisfaction. It is less invasive and can be used at high dose. Our initial results are encouraging and we feel this is a cost effective option in the treatment of erectile dysfunction.*○+R

Erectile dysfunction Treatment MUSE

P-372 先天性異所性精巣ラットにおける造精機能障害、

帝京大学 医学部 泌尿器科¹⁾ 帝京大学 医学部 病理学教室²⁾ 帝京大学 医学部 中央動物室³⁾

足立 陽一¹⁾ 友政 宏¹⁾ 押尾 茂¹⁾ 上山 裕¹⁾ 岩渕 正之¹⁾ 梅田 隆¹⁾
入江 宏²⁾ 田村 弘³⁾

【目的】精巣下降異常による造精機能障害のモデルとして考えられている先天性異所性精巣ラット（TS strainラット）を用い、精細管上皮の障害を検討した。【方法】雄の約70%に両側ないし片側の精巣下降異常が認められるTS strainラットのうち片側異所性精巣のものをを用いた。患側精巣は鼠径管通過後反転し、生後約3週目で鼠径部の皮下、腹壁筋層の表面に触知されることが確認されている。生後4週、6週、8週でそれぞれ4匹づつを用い、精巣重量、精巣組織、精細胞のアポトーシスを検討した。組織学的検査にはHematoxyline-Eosin染色を、アポトーシスの検出にはTUNEL法を用い、陽性精細管数および陽性細胞数を検討した。対側の陰嚢内精巣を正常対照群とした。【結果】4週では患側と正常側の間に精巣重量に差はなく、精細胞の一部にアポトーシスをみとめた。6週では患側の精巣重量が正常側に比較して約40%に減少し、組織学的に精上皮細胞の減少が認められ、精母細胞を中心にアポトーシスの増加が観察された。8週では患側の精巣重量は正常側に比較して約30%に減少し、組織学的に高度の精細管の萎縮を認めた。【結論】今回検討したTS strainラットにおいてアポトーシスが造精機能障害に強く関与していることが示唆された。

異所性精巣 精細胞アポトーシス ラット